

# TUMSAT-OACIS Repository - Tokyo

University of Marine Science and Technology

(東京海洋大学)

第一部 海鷹丸航海調査報告 平成16年度(2004年度)  
第15次航海報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/277">https://oacis.repo.nii.ac.jp/records/277</a>

#### 4.6.1.3 ケープタウン港入港報告 (Report of Cape Town)

##### 1. 概要

本船は年始からの南氷洋調査の準備のため、調査員の上下船、燃料、食料の積み込みのため、アフリカ大陸最南端に位置する、南アフリカ共和国、ケープタウンに寄港した。ケープタウンに入港する当日の 0600 頃、本船は喜望峰(Cape of good Hope)を通過した。その際、多くのオットセイヤ、ペンギン、マンボウを見る事ができた。

ケープタウンはアフリカを代表する港であり、有数の観光地の内の1つでもある。そのため入港するまでに数多くの貨物船を目撃し、またウォーターサイドにはレストランなどの歓楽街が広がっていた。(Photo. 1,2,3,4,5)

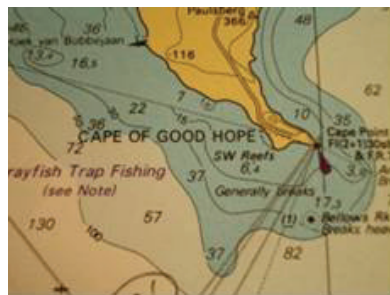


Photo.1 Cape point of Chart



Photo. 2 Cape of good Hope



Photo. 3 Water Front



Photo. 4 Port authority



Photo. 5 Water Front B/w

##### 2. 入港

###### 2.1 入港 (12月26日)

本船は代理店を通じて入港5日前に ETA 通報、水先人を要請した。そして入港 72 時間前において電子メールにて再確認を行った。

VTS 通報海域(1B)15分前(ETA の 1h15m 前)に VHF.CH14 で VTS 通報を実施した。

ETA25 分前に 2 B 通過報告をした後、5 分前に PORT CONTROL から本船にパイロットラダーを左舷側、マンロープ 2 本、水面から 1m の位置への設置指示があった。

09:40 Pilot Capt.Pulliah 乗船 (Photo. 5)



Photo. 5 Pilot

09:55 Cape town Ben&schoeman dock600 に着岸

10:09 Pilot 下船

## 2.2 入港手続き

入港後代理店が乗船し、検疫書類、税関書類を代理店に渡した。無線検疫(入港 72 時間前に代理店経由で Port Health Cape Town に通報した。) 終了済みのため検疫及び税関は来船せず、入国管理局から 1 名が来船してクルーリストをチェックを行った。ボンドストアは税関が来船しなかったためシールされなかった。

## 2.3 シフト

代理店の話では給油後のシフトは困難であるとの事であったが、翌日午前(12/27)には軍艦出港後の岸壁を確保し DUNCAN Wharf A にシフトした。

当日正午の気象は、水温：14.8℃、気温：22.2℃、気圧：1011.1hpa、風向：S、風速 1.2m/s、雲量：Partly cloudy であった。

10:24 Pilot Capt. Erasmus 乗船。(Photo. 6)

10:35 離岸。シフト開始。

11:07 DUNCAN A に着岸

11:18 Pilot 下船



Photo. 6 Pilot Capt. Erasmus

### 3. 港湾設備

#### 3.1 Ben&schoeman dock 600

この岸壁に停泊中に外に出る機会は無かったのでゲートは見る事ができなかったが、話によると Gate まで 600m ほどあり無料のシャトルバスがあるとのことであった。また、代理店によるとシフトできなかった場合は歓楽街である Water front までの Cross boat があるとのことであった。岸壁は広く、コンテナが積み上げられていた、更に、巨大なタンカーが 4 隻停泊しておりクレーンでの積み込みを行っていた。巡回中の警備員もおり、関係者以外の出入りは見受けられなく、夜になっても本船周辺では危険な印象は受けなかった。給油と食料積み込み、調査員の乗船はここで行った。(Photo. 7)



Photo. 7 Ben&schoeman dock 600

##### 3.1.1 ビット

かぎ型で黄色に塗装されていた。間隔は、19.20m No. 64 から No. 132 までの計 79 個あった。側面からの高さは、68cm、幅 120cm (Photo. 8)、正面からの幅は、最大 80cm、最小 45cm であった。(Photo. 9)



Photo. 8 Bit (Side)



Photo. 8 Bit (Front)

##### 3.1.2 ガントリークレーン

車輪幅は、20.12m あり岸壁から 2.44m の位置に設置されていた。



Photo. 9 Gantry Crane



Photo. 10 Fender of wharf



Photo. 11 Fender of wharf

### 3.1.3 フェンダー

古タイヤで直径は、3.10mであった。(Photo. 10) 大型タンカーに使用されていた円筒形のフェンダーもあった。(Photo. 11)

## 3.2 DUNCAN Wharf A

ここでは、本船の近くに他のコンテナ船などは見当たらず、警備員のいるゲートに近い場所であった。12月27日から12月31日の出航日まで停泊した。また、この岸壁では出航日にゴミの回収を行った。(Photo.12,13,14)



Photo. 12 Docked position of Chart



Photo. 13 Duncan wharf



Photo. 14 Garbage track

### 3.2.1 ビット

Ben&schoman dock 600 のものと比べて形状に違いが見られたが、高さ、幅など大きさはほぼ同じであった。

### 3.2.2 フェンダー

ビット同様、こちらは形状、大きさ共に同じであった。